



## 後期学校訪問（嶺南4町）まとめ号②



後期訪問で聞き取った各校の取組を紹介します。 ○…良好であったこと ★…次へのSTEP

## 研究推進

## ○教職員みんなが研究に向かうための工夫がなされている。

## めざす児童生徒の姿、育む力を明確にする・共有する

- ・児童生徒の実態をもとに、めざす姿、育む力を教職員で話し合い、共通の目標をもっている。
- ・教職員で共有したこと（研究主題、研究の方針、授業づくりで大事にしたいことなど）をまとめたものをクリアケースに入れて個人でもち、研修時だけでなく、いつでも意識できるようにしている。
- ・各学年の取組や、研修後の個人の振り返りを、タブレットで同じシートに入力したり掲示したりして、進捗状況の確認や共有を行っている。

## 対話で学び合う

- ・共通の目標に向かうための手立て（課題設定、対話、ICT活用など）を教員が自己選択し、同じ手立てを選んだグループで実践交流し、アドバイスし合ったり悩みを相談し合ったりしている。
  - ・研究協議では、教職員の話し合いが深まる工夫がみられる。
- （例）児童生徒の学びの姿から見取ったことを出し合い、さらに深く考えたい課題を1つに絞り交流する。
- （例）主体的な学び、対話的な学び、深い学びの3つの視点のY字チャートを使い、話す視点を明確にする。
- （例）児童生徒の学びの姿と教師の指導とを別のグループで見取って交流する。

## 振り返りを設定する

- ・研修や授業公開後に、「学んだこと、明日からの授業に生かせること」などを一人ひとりがシートに記入し、個人の授業改善につなげている。

★授業づくりシート、学校評価などを用いて検証を行い、取組の改善につなげましょう。

## 管理職懇談

## ○児童生徒主体の学校づくり

- ・教師が児童生徒の前に出すぎないことを、校長から日々教職員に伝えている。
- ・スクールプランが児童生徒に浸透している。またスクールプランに基づいたPDCAサイクルも上手く回っている。これらのことが「児童生徒主体の学校」に繋がっている。

## ○教職員の同僚性の構築

- ・職員室内の雰囲気が良く、教職員同士の対話が多い。（多数の学校）
- ・ベテランと若手教員の協働が進んでおり、若手教員にとって相談しやすい雰囲気がある。
- ・毎朝、主任同士で情報共有する時間を設けており、そこでの情報を学年経営や分掌経営に生かしている。ミドルリーダーがお互いに関わり合いながら、主任の役割を果たしている。
- ・問題発生時には積極的に支援会議を開いてチームで対応し、担任の支援に努めている。

## ○職員研修の工夫

- ・カンファレンス型の職員研修を取り入れている。
- ・校内研究テーマの下に個人テーマを決めて取り組んでおり、学期の終わりにはグループに分かれて振り返りを行っている。（教師も「個別最適な学び・協働的な学び」を実践している）
- ・毎週、曜日と時間を決めて教頭と若手教員とが対話をする場を設けている。人材育成やメンタルヘルスの面からも良い時間となっている。

## 生徒支援について

### ○児童生徒理解

- ・一人一人の生活背景や諸事情を尊重し支援を行っている。

### ○不登校への対策

- ・不登校の未然防止に向け、校則などの「学校の当たり前」を見直している。
- ・毎日当たり前のように登校できている児童生徒にも、積極的に話しかけ、不登校の未然防止につなげている。
- ・毎日の健康観察では、心の状態を記入する欄を設け、早期に児童生徒の心身の状態の変化に気付くことができるようにしている。(タブレット端末の活用)
- ・芝生広場の整備や中庭へのバスケットボールコートの設置、校舎内にフリースペースを設ける等、学校全体の環境整備を行うことで多様な居場所を確保している。
- ・積極的に「個別の指導計画」を作成し、教職員全体で児童生徒を見守っている。
- ・不登校対策チームを3段階で組織し、管理職や学年主任等がチームの中心となって段階に応じた対応を行っている。(中学校)

★来年度に向け、生徒指導全体計画や推進計画（「させる」から「支える」への転換）、「いじめ防止基本方針」の見直しをしましょう。

## 人権・同和教育について

### ○授業づくりシート① = 「人権教育の日常化に向けて」の活用

- ・校内授業研究会では「授業づくりシート①」を手に持って参観を行っている。事後研究会では、参観時に用いた「授業づくりシート①」に自分の気づきや学びを記入している。

### ○自己選択・自己決定の場の設定

- ・国語では、自分の読みのレベルに合った課題を選択できるようにしている。
- ・理科では、自分の興味・関心に基づいて、観察・実験の方法を選択できるようにしている。

### ○多様性の理解

- ・LGBTQに関する人権教育研修が広がっている。  
(例) 外部講師の招聘。兵庫県制作のビデオ（兵庫県人権啓発協会）を活用した職員研修等の実施。

兵庫県人権啓発協会 HP



★「人権感覚チェックシート（福井県）」を用いて、定期的に教師自身の言動を振り返りましょう。

### 【チェック項目の例】

- ・『他と異なる意見や、最終的に不正解だった意見を発言した児童生徒が嫌な思いをすることがないように配慮しているか。』
- ・『児童生徒に対して、「〇〇さん」等敬称をつけて呼んでいるか。』
- ・『注意する前に「なぜそのような行動をとったのか」要因や背景を考えるようにしているか。』等

人権感覚チェックシート



## 特別支援教育について

\* 後期訪問で参観した学校の様子から

### ○学校全体で取り組むユニバーサルデザイン

- ・ スクールプランや研究内容にユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- ・ 落ち着いて学習できるよう教室環境（刺激への配慮、場の構造化、ルールの明確化等）が整えられている。校内で統一され、どの教室も同じように構造化されている。
- ・ 授業の「視覚化」（学習活動の明示、図や写真の提示、資料の拡大表示等）、「共有化」（意見の全体共有、グループでの話し合い活動等）に、ICT 機器が活用されている。

### ○安全・安心な学級づくり

- ・ 授業者が、あたたかな表情や態度（笑顔、穏やかな口調、具体的な称賛、机間巡視での丁寧な言葉かけ等）で児童生徒と関わっている。
- ・ 児童生徒が安心して自分の考えや思いを表現できる学級の雰囲気があり、授業研究会でも児童生徒のがんばりやよい姿が共有されている。

### ○個への支援・配慮

- ・ 「気がかりな児童生徒へのサポートの手立て」が指導案に明記されている。お助けカードの準備、必要に応じた個別の言葉かけ等、個への支援や配慮が具体的に考えられている。

★児童生徒の「学びやすさ」「過ごしやすさ」の向上のために行った、授業づくり・学級づくりの工夫や手立てを教職員間で共有し、来年度の取組に生かしましょう。